



「目の相談会」&「読み書きの相談会」のご案内

日時 9月2日（土）13時30分～16時00分 【参加無料】

目の病気等で何らかの見えにくさがある場合、お子様が学校生活で困ることがあります。具体的な目の病気がなくても、読み書きに困難さがある場合には、お子様が学校生活で困ることがあります。そのような困りごとについては、まわりもなかなか気づけません。黒板や教科書の文字が読めない状況の中では、お子様が楽しく授業に参加できず、困っているという話をよく聞きます。

実は、そのような場合であっても、早期にお子さんの特性や困難さに合わせた対処方法をとることで学習ができるようになります。早い時期から学習への取り組み方や工夫（例えば、上手な目の使い方、補助具の活用、ICTの活用）を身に着けることで、困りごとを軽減したり、解決したりすることができます。

そこで、今年度は、見え方や、読み書きの困りごとについて、コーナーを分けた相談会を計画いたしました。お子様のことで、気になることや相談したいことがありましたら、どうぞお申し込みください。当日は、教育や医療の専門家がご対応します。

●目の相談コーナー

相羽大輔先生（愛知教育大学特別支援教育講座）

川部幹子先生（コスモス眼科）

●読み書きの相談コーナー（対象：就学前～小学生）

吉田優英先生（ディスレクシア協会名古屋代表：発達性ディスレクシア支援センター長）

明石法子先生（発達性ディスレクシア支援センター副センター長、愛知淑徳大学）

大島光代先生（ディスレクシア協会名古屋：名古屋学芸大学）

場所 ソレイユ名古屋 12階 研修室

共催 ディスレクシア協会名古屋

視覚障がい者ライフサポート機構 “viwa”

協力 愛知県立名古屋盲学校

NPO 法人愛知視覚障害者援護促進協議会

社会福祉法人名古屋ライトハウス

後援 社会福祉法人名古屋市身体障害者福祉連合会

愛知県教育委員会、名古屋市教育委員会

申込 ディスレクシア協会名古屋（担当：吉田）

申し込み URL <https://forms.gle/ddyEjcqKDeTswwen7>



●見えにくさのある子どもって？

目の病気等で何らかの見えにくさがある場合、まわりの人になかなか理解してもらえず、お子様が学校生活で困ることがあります。お子様に次の項目がひとつでも当てはまるようでしたら、見えにくさがあるかもしれません。

- 眼鏡をかけて教室の前の席にいても、黒板の字が見えにくそう。
- 本やテレビを見るとき、極端に目を近づけている。
- 本を読むとき、行をまちがえたり、似た字を混同したりする。
- 地図の読み取りや、算数の細かい目盛りを読むのが苦手そう。
- 眼鏡をかけても視力が上 0.3 以上にならない、視野などに障害がある。
- 暗いところ、または、明るいところで、見えにくくなる。
- 注意して見ようとすると、眼球がゆれる。
- ボール運動や技能を伴う教科が苦手そう。

●読み書きの困難さのある子どもって？

こちらは、就学前～小学生までのご相談が対象です。

視力には問題はないのに、会話もしっかりしているのに、何故か成績が伴ってこないことはありませんか？ お子様に次の項目がひとつでも当てはまるようでしたら、読み書きの困難さがあるかもしれません。

(就学前)

- 文字に関心を示さない。本を読みたがらない。

(就学後)

- 教科書がスラスラ読めない、語尾や文末を読み誤ることが多い
- 読めても音読の速度が遅い
- 黒板をみんなと同じスピードで写すことが難しい
- ひらがなで書けない文字があり、拗音や促音の読み書きも困難である
- カタカナの習得ができていない
- 漢字の写字（視写）で、間違える
- 図形の模写（視写）が、困難である
- 漢字を何回書いても覚えられない、覚えても時間が立つと忘れてしまう
- ローマ字がなかなか覚えられない
- 英語の読み書きが苦手である
- 読み書きに時間がかかり、テストの時間内にやれない

